自主子育てグループの活動について

長坂典子[1]　相場静子[2]

【要約】近年、子育て支援策として、子育てグループの育成が行政の大きな目標になっている。子育てグループは全く自発的に発生し、活動を続けているもの、行政などの呼びかけで結成され、その後独立して、自主活動をしているもの、すべて、行政から用意されて、その範囲内で活動しているもの、それから、普通の子どもたちの母親を中心としたグループ、障害などを持った子どもたちの母親のグループなど、様々な内容のグループが活動を行っている。今回は育児雑誌の投稿欄に投書を寄せてきた読者を対象に子育てグループの活動実態を調査してみた。

見出し語：子育てグループ　行政

【研究目的】

社会環境の変化、家庭を取り巻く環境の変化、こどもを取りまく環境は急速に変化し、子育てについても大きな変化を来している。

育児に専念という生活が、ともすれば地域の中で孤立してしまうという結果をもたらしていることもあるが、母親たちは子育てグループに参加することにより、遊び場がない、こどもの遊び相手、子育ての苦労を分かち合える友達、助言をしてくれる人を見つけ出すことに成功している。このようなことから主に自主的に活動している子育てグループの活動実態を把握し、母子保健サービスのあり方について検討してみた。

【研究方法】

雑誌“わたしの赤ちゃん”に投稿してきた全国の読者300人を対象として、アンケート用紙を送付し、回答は郵送により回収した。

【研究結果】

1）調査期間

平成5年12月15日から平成6年1月31日までの投稿者全員を対象とした。

2）回答状況

アンケート発送数	300通
回答数	185通（61．6%）
未回答	115通（38．4%）

3）調査結果

1．こどもの定期健康診断を保健所や市町村（保健センター）で受けている人は、必ず受けている142人（76．8%）、ときどき受けてい

[1] 東京都中部精神保健センター
[2] 主婦の友社「わたしの赤ちゃん」編集部

る30人（16．2%）、受けていない10人（5．4%）、その他 3 人（1．6%）であった（表-1）。受けていない理由としては、

①仕事をしているので時間がない。

②保健所で一度不愉快な思いをしたので、お金をかけてでも病院で受けている。

③遠い。体が不自由なのでタクシーを利用しないといけない。

④母子手帳にある健紛は受けているが、その他はデパートの育児相談で身長、体重を測っているだけ。

⑤保健婦が嫌いだから。などという理由が挙げられ保健所への批判がみられた。

2．普段の出産や育児情報の入手先は、雑誌が79．5%ともっとも多く、次いで友人69．2%、お母さん方のグループ、サークル69．2%であった（表-2）。

3．子育てにおいて、不安や悩みがあるときに相談する相手は、友人71．9%が最も多く、次いで夫56．2%、グループ及びサークルの仲間49．2%、父母44．9%の順になっていた（表-3）。

4．公園、虚び場（76.2%）、公衆トイレ（65.4%）、いつでも利用できる託児施設（60.5%）と順位が高いのは、毎日の子育ての場で、これらのものが不備であることを現していると思われる。さらに、記述によるものから是非ほしいものとして挙げられているものは、

・託児所つきの演劇、映画、スポーツ施設講演会、特に映画館を設けてほしい。

・子供連れでも気軽に入れるレストラン、デパート、駅の段差をできるだけなくしてはしい。車椅子の人にも言えるのではないか。

・託児施設のある仕事場が欲しい。

・市の保育園の拡大を、保育所の保育時間の延長。保育所の入所申し込みの期限を設けず随時入所にして欲しい。

・高校生、大学生、一般の人達が受けられるベビーシッター養成講座を設けて欲しい。信瀬できるベビーシッターを養成し気軽に利用できるようになるとよいと思う。

・市や県主催の婦人講座・子育て学級を土、日、夜にも設けてほしい。父親が参加する機会、こどもを父親に預けて、母親も子育て以外のことに目を向ける機会が持てるといいと思う。

などが述べられていた（表－5）。

6．グループのメンバーは20人以上が111人（60%）を占め11人～20人が27人（14．6%）、6～10人が12人（6．5%）であった（表-6）。

7．子育てグループに入った動機について尋ねてみると、近くに友人がいないので他の人の育児の話を聞き、自分の悩みや楽しさも話し、末長くお付き合いのできる友人ができればと思ったので、市の保健所で母親学級の参加してその後同窓会という形で集まり、グループになった、雑誌の文通欄で近所のサークルを見つけて手紙を出したなど、母親達は自分のためこどものため積極的に仲間を求めて子育てグノループに参加している。中には育児雑誌は読みたい2～3頁のために500円くらい出費して本を買わなければならない。読みたいと思う頁のものを中心とした会報を作ろうと思って始めたというものもあった。

8．いつも活動をしている場所は、メンバーの家（47．6%）公園（39．4%）地区センター、集会所（20．5%）その他（37．3%）であった。その他の中で現代を反映していると思われたのが、カラオケBOXの利用が12人（6．5%）あったことである（表-7）。

９．ふだんの活動について尋ねると、子育てについての情報交換（65．4%）、親同士の交流を主にしており、（60．0%）、こども同士を遊ばせる（49．7%）となっており、親同士が交流する中でこどもを遊ばせていることが明らかになっている（表－８）。

１０．グループに入って良かったことは何かについて尋ねると、友達ができた（81．1%）、子育ての悩みが気軽に話せるようになった（56．8%），生活に張りが出た（45．4%）などがあげられており、悪かったこととして人間関係が難しい（34．6%）、他人のことが気になる（10．3%）があった（表－９、１０）。

１１．グループに入って自分がどのように変わったかについて質問してみると、家にこもりがちであったが外へ出ることができるようになり子育てにも自信がもてるようになった、不安や悩みを話し合える友達もできストレスがあまりたまらなくなり、夫婦喧嘩が減った。他人への思いやりや世間的な常識が身についたなどグループに入って自分自身が変わったと答えたものが67．6%であった。

１２．グループ活動の印象

グループ活動について、約 80%が満足していると答えている。

１３．今後のグループ活動

もっと人数を増やして、いろんな面でプラスになるような活動をしたい、集会や小旅行などを試みたいなど今後も積極的な活動を考えている。

１４．子育てグループ以外のグループ活動への参加は、34%の人が他のグループ（同人誌サークル、リサイクルグループ、小説など創作グループなど）に入っていると答えている。

１５．子育てグループの活動をしていく上で困ったいることは何かについて聞いてみると、行政に援助をして欲しいことがあると答えている人が52．5%あった。その内容は、活動場所の確保、保健所等の解放、役所は子連れというだけで場所を自由に貸してくれない。何に対しても前例がないと断わられてしまう。公民館等を使いたいが区民以外はだめと言われたり、老人会や子供会の行事を優先させられることが多く、1か月前に予約していても予約になっていなかったり、当日の朝になってキャンセルの電話があったりして困るなど集会の場所がないことを多くのひとが挙げている。教育に関しては公立の病院での保育付子育て（病気についてなどの）相談会を開いてほしいなど、こどもの健康についての教育を望む要望もある。また出産前に育児の大変さを勉強する機会を作ってほしい。特に男性にも育児がいかに大変なのかを知ってほしい。文部省にいうべきかも知れないが、義務教育の中で妊娠、出産、育児についてを教えてほしい。などが要望事項として挙げられていた。

【考察】

子育てグループのメンバーの規模について、当初、1グループ 20 名程度の予測であったがメンバー数20名以上が60%と過半数を越えていた。グループによっては1000人規模の大組織を有するものもあった。1000 人規模のグループについては、雑誌を通じて呼びかけたものであり、常時一同に会することはないと思われるが、各県に組織ができているグループもあった。

グループに入ったきっかけは、同じ年齢の子どもをもつ母親同士の交流をしたいこと、母親自身、友達がほしいなど、人と何らかの形でコ

ミュニケーションをもち社会とのつながりを持っていこうとしている様子が伺える。

グループに入ったことで母親自身の変化は、子育ての大変さは自分だけと思っていたが、みんなが同じ悩みを持ちながら子育てをしていることがわかり気持ちが楽になり、毎日楽しく過ごせるようになったと、グループに入ったことを精神的な面でプラス評価している。

これは、子育てをする中で不安や悩みがあるときの相談相手は友人、夫に次いでグループ及びサークルの仲間が多かったことからもグループの果たす役割の大きさがうかがえる。
また、子育てグループに入っている母親たちの1／3 は他のサークルにも属し積極的に情報交換等活動を行っている。

いつもの活動場所は、メンバーの家や公園はもとよりカラオケ BOX という場が挙げられており今様の特徴がみられた。

行政への要望は、場所の提供を強く望んでいる。公共の場所が少ないことと、公共の場であってもこども連れは制約が多すぎるため母親たちは自助努力を強いられている。今後の課題としては、子育ての支援の一環として、子育てグループのみではなく、子育ての悩みをもつ多くの母親・父親たちが持つ問題を把握し、それらのニーズに応えられような施策（メニュー）を行政として示していくことが必要である。

【まとめ】

1）育児雑誌に投稿してきた子育てグループの母親たち３００人に活動実態について、アンケート調査を行った。

2）グループのメンバー数は 20 人以上と答えたものが、60%で最も多く、中には 1000 人規模のグループも含まれていた。しかし、今回の調査は育児雑誌の購読者を対象にしたため、どちらかというと、グループを広げようとする意志の強い母親達であるため規模の大きいものが集まったものと考えられる。

3）活動の場所はメンバー数により異なるが、メンバーの家が最も多く、ついで公園、地区センターや集会所であり、なかにはカラオケボックスと答えたものもある。多くの意見として、活動の場所の確保に苦労し、行政の援助を求めていた。

4）活動回数は月１回ぐらいが最も多く、60%以上は活動に満足感をもっていた。活動の内容は情報交換、親同士の交流が最も多く、親子遊び、運動、人形劇など独自工夫を凝らしていた。

5）約 34%の母親は子育てグループ以外の他のサークルにも参加していた。

6）子育てグループに参加したことによるメリットは友人ができたこと、育児の不安やストレスが軽減されたこと、いろいろな情報交換ができるなどであり、反面、人間関係や他人ののことが気になったり、新たなストレスも出現していた。

行政側で援助が考えられること

- 保健所、保健センター、公民館、児童館、集会所など公共施設を開放
- 育児サークル等への講師派遣、助言者の派遣
- 妊娠・出産に関する男性への教育（両親学級、父親学級等夜間、休日に開催）
- 保健相談の内容の見直し（民間に比べて公的な機関は昔のままで相談をしている）
- 公園の整備
- 障害児保育の枠を広げる
- 保育園（地域のこどもと交流保育、園庭の開放、相談室の拡充）

表－１：行政の定期検診の受診

	件数	%
必ず受けている	142	76.76
ときどき受けている	30	16.22
受けていない	10	5.41
その他	3	1.62

表－２：出産や育児情報の入手先

	件数	%
夫	23	12.43
友人	128	69.19
姉妹	22	11.89
あなたや夫の父母	70	37.84
近所の人	50	27.03
保健婦	29	15.68
かかりつけの医師	38	20.54
愛育班員	0	0.00
電話相談	9	4.86
雑誌	147	79.46
新聞	42	22.70
県や市町村広報	23	12.43
講演会	9	4.86
グループ・サークル	128	69.19
その他	6	3.24

表－３：不安や悩みがあるときに相談する人

	件数	%
夫	104	56.22
友人	133	71.89
姉妹	22	11.89
あなたや夫の父母	83	44.86
近所の人	15	8.11
保健婦	13	7.03
かかりつけの医師	21	11.35
愛育班員	0	0.00
電話相談	10	5.41
グループ・サークル	91	49.19
なし	1	0.54
その他	4	2.16

表－４：今まで子育てで利用したことのあるもの

	件数	%
1. 託児施設	34	18.38
2. 保健所や市町村の育児相談	60	32.43
3. デパートなどの育児相談	31	16.76
4. 電話相談	32	17.30
5. ベビーホテル	8	4.32
6. 公園などの遊び場	139	75.14
7. 児童館	45	24.32
8. ベビーシッター	8	4.32
9. その他	9	4.86

表－５：これからも子育てで利用したいもの

	件数	%
1. 近くの公園・遊び場	141	76.22
2. 保健所や市町村の育児相談	47	25.41
3. デパートなどの育児相談	16	8.65
4. 電話相談	14	7.57
5. ベビーホテル	55	29.73
6. 保健所や市町村の子育て学級	60	32.43
7. 児童館	63	34.05
8. 茶中や公共施設の授乳室	121	65.41
9. 子連れで楽に利用できる公衆トイレ	33	17.84
10. 信頼できるベビーシッター	112	60.54
11. いつでも利用できる託児施設	107	57.84
12. 育児手当の拡大・増額	76	41.08
13. 父親が育児参加できる休暇や制度	49	26.49
14. 有給の育児休暇	5	2.70
15. 愛育班員さんの訪問	31	16.76

表－６：グループのメンバー

	件数	%
５人以下	12	6.49
６～１０人	18	9.73
１１～２０人	27	14.59
２０人以上	111	60.00
無回答	17	9.19

表－７：活動の場

	件数	%
1. 公園	73	39.46
2. 地区センター・集会所	38	20.54
3. レストラン	17	9.19
4. メンバーの家	88	47.57
5. 児童館	14	7.57
6. 公民館	17	9.19
7. 保健所・保健センター	6	3.24
9：空き地	9	4.86
10. その他	69	37.30

表－８：普段の活動内容

	件数	%
1. 親同士の交流を主にしている	111	60.00
2. 子ども同士を遊ばせる	92	49.73
3. 手作り遊び	17	9.19
4. 子どもと一緒に遊ぶ	61	32.97
5. 絵本を読み聞かせる	7	3.78
6. 冒険遊び	1	0.54
7. 講師を呼んで話を聞く	7	3.78
8. 子育てについての情報交換	121	65.41
9. ニュース作り	46	24.86
10. 子どものための教育的プログラム	9	4.86

表－９：グループに入ってよかったこと

	件数	%
友達ができた	150	81.08
子どもがいきいきしてきた	41	22.16
育児不安が消えた	66	35.68
子育ての悩みを気楽に話せるようになった	105	56.76
趣味が増えた	67	36.22
生活に張りが出た	84	45.41
子どもを叱らなくなった	16	8.65
特になし	4	2.16

表－１０：グループに入って悪かったこと

	件数	%
ストレスがたまる	11	5.95
人間関係が難しい	64	34.59
プライバシーがなくなる	10	5.41
子どもが楽しそうでない	2	1.08
母としての自信がもてなくなった	0	0.00
他人のことが気になる	19	10.27
家族がでかけるのをよく思わない	6	3.24
特になし	70	37.84

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

【要約】近年、子育て支援策として、子育てグループの育成が行政の大きな目標になっている。子育てグループは全く自発的に発生し、活動を続けているもの、行政などの呼びかけで結成され、その後独立して、自主活動をしているもの、すべて、行政から用意されて、その範囲内で活動しているもの、それから、普通の子どもたちの母親を中心としたグループ、障害などを持った子どもたちの母親のグループなど、様々な内容のグループが活動を行っている。今回は育児雑誌の投稿欄に投書を冒せてきた読者を対象に子育てグループの活動実態を調査してみた。